

平成 25 年 3 月 18 日

化学工学会エネルギー部会 平成 24 年度第 1 回総会議事録(案)

日 時: 平成 25 年 3 月 18 日(月)12:00-13:00

場 所: 大阪大学豊中キャンパス 学会会場(A 会場(B107))

出席予定者(敬称略):加藤之貴、亀山秀雄、四十物清、伊原学、窪田光宏、松方正彦、大友順一郎、鷹觜利公、汲田幹夫、蘆田隆一、藤岡恵子、宝田恭之、二宮善彦、小林信介、成瀬一郎、植木保昭

1. 報告事項

- (1) 平成 24 年度理事会および部会 CT・部会長合同会議報告 : 回覧
- (2) 平成 24 年度秋季大会エネルギー部会企画シンポジウムについて : 資料 24-3 総 1
成瀬部会長より報告があった。
- (3) 化学工学会年鑑 2012 : 資料 24-3 総 2
成瀬部会長より報告があった。
- (4) 共催・協賛等について : 資料 24-3 総 3
成瀬部会長より報告があった。追記等については修正済み(赤字)。その他、追記および修正等ある場合は事務局まで。
- (5) 各分科会平成 24 年度活動報告
各分科会の代表者より説明があった。詳細については資料参照。
 - i) 炭素系資源利用分科会 : 資料 24-3 総 4
 - ii) 熱利用分科会 : 資料 24-3 総 5
 - iii) 燃料電池・電池分科会 : 資料 24-3 総 6
 - iv) 新エネルギー・エネルギーシステム分科会 : 資料 24-3 総 7
 - v) バイオマス分科会 : 資料 24-3 総 8
 - vi) 微量成分分科会 : 資料 24-3 総 9
- (6) 化学工学論文誌編集委員のエネルギー部会からの推薦 : 資料 24-3 総 10
亀山先生より説明があり、幹事会にて承認されたとの報告があった。
- (7) 平成 24 年度決算・監査について : 資料 24-3 総 11
植木より説明があり、幹事会にて承認されたとの報告があった。
- (8) 平成 25 年度事業計画 : 資料 24-3 総 12
成瀬部会長および各分科会より説明があり、幹事会にて承認されたとの報告があった。追記および修正等ある場合は事務局まで。化工年鑑 2013 は伊原次期部会長が対応。
- (9) 平成 25 年度予算について : 資料 24-3 総 13
植木より説明があり、幹事会にて承認されたとの報告があった。
- (10) その他
なし

2. 審議事項

(1) 平成 24 年度第 1 回総会議事録(案)

: 資料 24-3 総 14

審議の結果承認された。修正等ある場合は事務局まで。

(2) 平成 25・26 年度部会執行部名簿(案)

: 資料 24-3 総 15

審議の結果承認された。バイオマス分科会は検討中。各分科会は副代表および幹事を決定後、伊原次期部会長まで連絡。

(3) その他

・成瀬部会長および伊原次期部会長より挨拶があった。

3. 連絡事項

(1) 次回幹事会・総会について

i) 平成 25 年度第 1 回幹事会

平成 25 年 9 月 16 日(月):第 45 回秋季大会(岡山大学)第 1 日の夕刻を予定

ii) 平成 25 年度総会

平成 26 年 3 月 19 日(水):第 79 年会(岐阜大学)第 2 日の昼を予定

(2) その他

参考資料

・化学工学会エネルギー部会規約

: 資料 24-3 総 16

	タイトル	概要	オーガナイザー	担当部会
S-1	次代を担う各種電池等のエネルギーデバイス—その材料からシステムまで—	燃料電池、太陽電池、二次電池等の次世代エネルギーデバイス技術およびその関連技術は、低炭素社会の実現に向けたキーテクノロジーです。近未来社会におけるそれら新技術の幅広い浸透のためには、個別の材料開発やプロセス技術開発だけでなく、その周辺技術の開発、およびシステム的な観点からの評価も重要です。本シンポジウムでは、燃料電池、太陽電池、二次電池等のエネルギーデバイスおよびその関連技術(電池材料・電極 触媒合成、デバイス プロセス、システム評価等)に関する講演を広く募集し、材料、プロセス、システムの研究に基づく幅広い視点から化学工学ならではの討論を行います。また、本シンポジウムは、エネルギー部会、材料界面部会、反応工学部会の共催による部会横断型シンポジウムです。本年度より学生会員による発表を対象とした表彰を行います。要旨・プレゼンテーションの明快さ、本人の主体性・貢献度の明快さと研究の理解度などを審査し、会期中に表彰を行います。学生会員で会員申請中の方は備考欄にその旨記載ください。多くの方々のご参加をお待ちしております。	中川紳好(群馬大)・富重圭一(東北大)・田巻孝敬(東工大)・西村 顕(三重大)・松永健太郎(東芝)・古山通久(九州大)	EE/MI/CR
S-2	エネルギーシンポジウム	東日本大震災を機に、エネルギー資源および電源の確保が国民的関心事となっており、化石燃料の有効利用、未利用・自然エネルギーの利活用、省エネ技術・システムの開発など山積するエネルギー課題に対する技術的解決策が今まさに求められている。本シンポジウムでは、以下に示すトピックスを中心にエネルギーに関連する基礎研究から応用技術までの講演を広く募集し、エネルギー技術の革新に資する議論の場を提供する。1)化石燃料やバイオマス等の炭素系資源からのエネルギー発生・変換、2)各種エネルギーの回収・貯蔵・再利用、3)水素利用とエネルギーシステム、4)燃焼および環境保全	汲田幹夫(金沢大)・神原信志(岐阜大)・中垣隆雄(早稲田大)・義家亮(名古屋大)	EE
S-6	窒素を媒体とする再生可能エネルギーリサイクルシステムの可能性	アンモニアは大気中窒素と再生可能資源由来の水素から合成できる CO ₂ フリーの窒素化合物である。アンモニアは水素含有率 18wt%, 約 8.5 気圧(20℃)で液化し、その体積水素密度は液体水素よりも高い。さらに、貯蔵・輸送インフラ、取扱法が確立されており、再生可能エネルギーの貯蔵・輸送媒体として極めて優れている。そこで、本シンポジウムでは、アンモニアを始めとした含窒素水素貯蔵物質の高効率な製造・貯蔵・利用・回収技術に関する先進的研究発表・講演を通じて、窒素を媒体とする再生可能エネルギーリサイクルシステムの有用性及び実現可能性について総合的な議論の場を提供する。	上宮成之(岐阜大)・亀山秀雄(東京農工大)・都留稔了(広島大)・中島田豊(広島大)	CR/EE/SP/BE
S-14	バイオによる自然エネルギー：エネルギー多様化を目指す研究開発の最前線	福島原発事故によりエネルギーの多様化の必要性が再認識され、自然エネルギーに期待が集まっている。バイオマスエネルギーやバイオフェューエル、生物燃料電池や人工光合成など、バイオテクノロジーを利用した自然エネルギー生産に関する研究開発の最前線について探る。	堀克敏(名古屋大)・松村幸彦(広島大)	BE/EE

化工年鑑 2012

10.資源エネルギー

章・節・題目	執筆者	所属
10.1 化石資源利用	神原 信志	岐阜大学
10.2 蓄熱・ヒートポンプ	汲田 幹夫	金沢大学
10.3 燃料電池	大友 順一郎	東京大学
10.4 水素エネルギーシステム	坂田 興	エネルギー総合工学研究所
10.5 バイオマス	中川 浩行	京都大学
10.6 微量成分	義家 亮	名古屋大学
取り纏め	成瀬 一郎	名古屋大学

共催・協賛等について

資料 24-3 総 3

2012 年 3 月～2013 年 2 月

月日	行事名	共催・協賛団体	会場
2012 年 7 月 4 日～6 日	日本機械学会第 22 回環境工学総合シンポジウム 2012	【主催】日本機械学会 【共催】東北大学流体科学研究所、日本音響学会、廃棄物資源循環学会 【協賛】エネルギー・資源学会、化学工学会、環境科学学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、高分子学会、産業環境管理協会、資源・素材学会、自動車技術会、地盤工学会、静電気学会、全国都市清掃会議、大気環境学会、電子情報通信学会、土木学会、日本エネルギー学会、日本オゾン協会、日本化学会、日本環境衛生施設工業会、日本環境衛生センター、日本空気清浄協会、日本建築学会、日本産業機械工業会、日本産業廃棄物処理振興センター、日本水道協会、日本セラミックス協会、日本騒音制御工学会、日本太陽エネルギー学会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥科学会、日本燃焼学会、日本ヒートアイランド学会、日本分析化学会、日本水環境学会、日本リスク研究学会、日本冷凍空調学会、廃棄物研究財団、粉体工学会	東北大学片平キャンパス
2012 年 9 月 7 日	第 19 回「旬の技術・見学講演会」	【主催】化学工学会関東支部 【協賛】 <u>化学工学会エネルギー部会</u> 、日本化学会、日本エネルギー学会、電気化学会	(独)産業技術総合研究所 産学官連携共同研究施設
2012 年 10 月 11 日	粒子・流体プロセス技術コース 2012(第 26 回流動層技術コース)	【主催】化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会 【共催】産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門、日本粉体工業技術協会環境エネルギー・流動化分科会、化学工学会関東支部、化学工学会北海道支部、化学工学会粒子・流体プロセス部会、つくば化学技術懇話会、北海道科学技術総合振興センター 【協賛】化学工学会(エネルギー部会、反応工学部会)、石油学会、日本エネルギー学会、日本粉体工業技術協会、粉体工学会、有機質資源再生センター	産業技術総合研究所つくば西事業所、東京工業高等専門学校
2012 年 10 月 24 日～25 日	第 49 回石炭科学会議	【主催】日本エネルギー学会 石炭科学部会;コークス工学研究部会 【共催】 <u>化学工学会エネルギー部会</u> 、日本学術振興会 石炭・炭素資源利用技術第 148 委員会、日本エネルギー学会 重質油部会、エネルギー学部会 【後援】釧路市 【協賛】新エネルギー・産業技術総合開発機構、石炭エネルギーセンター、石油学会、触媒学会、化学工学会、日本ガス協会、日本鉄鋼協会、日本燃焼学会	釧路プリンスホテル
2012 年 10 月 28 日～11 月 1 日	6th International Topical Meeting on High Temperature Reactor Technology 2012 (HTR2012)	【主催】(独)日本原子力研究開発機構 【共催】日本原子力学会(承認済み)、日本機械学会動力エネルギー部門、 <u>化学工学会エネルギー部会</u>	日本科学未来館
2012 年 11 月 8 日～9 日	第 18 回流動化・粒子プロセスシンポジウム	【主催】化学工学会 粒子・流体プロセス部会(流動層分科会) 【共催】化学工学会 反応工学部会反応装置・プロセス分科会 【協賛】化学工学会エネルギー部会、化学工学会 反応工学部会反応装置・プロセス分科会、火力原子力発電技	大阪府立大学・学術交流館

		術協会、資源・素材学会、触媒学会、財団法人石炭エネルギーセンター、石油学会、日本エネルギー学会、日本機械学会、日本混相流学会、日本セラミックス協会、日本鉄鋼協会、日本燃焼学会、日本粉体工業技術協会、日本流体力学会、日本薬学会、廃棄物資源循環学会、粉体工学会	
2012 年 11 月 9 日	反応分離シンポジウム 2012	【主催】化学工学会反応工学部会「反応分離分科会」 【協賛】化学工学会分離プロセス部会「膜工学分科会」、 化学工学会エネルギー部会、触媒学会、石油学会、日本膜学会、日本エネルギー学会、ゼオライト学会、産業技術総合研究所	産業技術総合研 究所つくばセンタ ー
2012 年 11 月 27 日	第 5 回分離プロセス最新技術講座「二酸化炭素の吸着分離・回収」	【主催】化学工学会分離プロセス部会 【協賛】化学工学会エネルギー部会、分離技術会、日本吸着学会	(株)西部技研本社 会議室
2013 年 1 月 31 日	第12回コプロワークショ ップ エネルギー・物質 の併産(コプロダクショ ン)およびエクセルギー 再生による革新的省エ ネルギーと次世代産業 基盤の構築	【主催】科学技術振興機構(JST)、東京大学エネルギー 工学連携研究センター(CEE) 【協賛】東京大学エネルギー・資源フロンティアセンター (FRCER)、東京大学先端電力エネルギー・環境技術教 育研究センター(APET)、 <u>化学工学会エネルギー部会</u> 、 日本エネルギー学会、日本機械学会、日本化学会、エネ ルギー・資源学会、日本鉄鋼協会	東京大学生産技 術研究所コンベン ションホール
2013 年 1 月 31 日	燃料電池・FCH 部会 第 214 回定例研究会 公開シンポジウム『FCV と水素ステーションの開 発動向』	【主催】大阪科学技術センター 燃料電池・FCH 部会 【協賛】エネルギー・資源学会、化学工学会関西支部、 <u>化 学工学会エネルギー部会</u> 、近畿化学協会、電気化学会 関西支部、電気化学会電池技術委員会、日本電機工業 会、燃料電池開発情報センター、燃料電池実用化推進 協議会	大阪科学技術セ ンター

資料 24-3 総 4

各分科会平成 24 年度活動報告 炭素系資源利用分科会

炭素系資源利用分科会 代表 神原 信志

H24 活動報告

1) セッション共催: 日本機械学会環境工学総合シンポジウム(2012 年 7 月 4-6 日, 東北大学) 参加者 20 名

2) 化学工学会秋季大会エネルギー部会シンポジウム・炭素系資源利用関連セッション(2012 年 9 月 19-21 日, 東北大学) 参加者 40 名

これにあわせ, 9/19 炭素系資源利用分科会幹事会を開催 参加者 8 名

3) 講習会と見学会

毎年, 日本エネルギー学会燃焼部会と共催している。

月日	行事名	共催・協賛団体	会場	参加者
2012 年 9 月 21 日	燃焼の基礎に関する講習会	主催: 日本エネルギー学会	全国家電会館	40 名
2012 年 9 月 20 日	電源開発(株)磯子火力発電所見学会	主催: 日本エネルギー学会	磯子火力発電所	23 名

4) ホームページ作成

長年放置してきたホームページを作成。半年間は更新無料の契約。



5) 執筆

- ・化学工学誌化学工学年鑑(10.資源・エネルギー 10.1 化石資源利用)
- ・日本エネルギー学会誌 Annual Energy Review 号(III エネルギー変換技術の進展と研究動向, 1.燃焼理論 1.1 固体の燃焼)

6) 代表交代

H25 年度より, 京都大学中川浩行先生に交代します。

H25 活動計画

- 1) 化学工学会秋季大会エネルギー部会シンポジウム・炭素系資源利用関連セッション(2013 年 9 月 16－18 日, 岡山大学)
- 2) 共催事業
石炭科学会議(福岡;10 月):日本エネルギー学会と共催
- 3) 講習会と見学会
日本エネルギー学会燃焼部会と共催
- 4) 執筆
 - ・化学工学誌化学工学年鑑(10.資源・エネルギー 10.1 化石資源利用)
 - ・日本エネルギー学会誌 Annual Energy Review 号(III エネルギー変換技術の進展と研究動向,
1.燃焼理論 1.1 固体の燃焼)

1. 平成 24 年度活動報告

(1) 熱利用分科会 第 24 回研究会

「化学再生発電システムおよびガスタービンに関する講演会と三菱重工業(株)高砂製作所見学会」(日本伝熱学会関西支部・伝熱技術フォーラムとの共催)

開催日：平成 24 年 8 月 6 日 (月)

会 場：三菱重工業(株)高砂製作所 高砂社員クラブ 2 階大集会室 (兵庫県高砂市荒井町新浜 2-1-1)

企画担当者：藤岡 恵子 (ファンクショナル・フルイッド)

参加者：48 名

見学会：三菱重工業(株)高砂製作所ガスタービン工場

講演会：

「化学再生発電システムの現状」(早稲田大学) 中垣 隆雄 氏

「超高温産業用ガスタービンの開発ータービン冷却技術の進展ー」

(大阪大学大学院) 武石 賢一郎 氏

(2) 第 44 回秋季大会 シンポジウム「エネルギーシンポジウム」

(炭素系資源利用分科会, 熱利用分科会, 新エネルギー・エネルギーシステム分科会, 微量成分分科会の共同開催)

開催日：平成 24 年 9 月 19 日 (水) ～21 日 (金)

オーガナイザー：汲田 幹夫 (金沢大学), 神原 信志 (岐阜大学), 中垣 隆雄 (早稲田大学), 義家 亮 (名古屋大学)

講 演：展望講演 1 件, 依頼講演 1 件, 一般講演 49 件

展望講演「高機能ゼオライト AQSOA の開発および次世代エネルギーシステムの提案」(三菱樹脂) 垣内 博行 氏

依頼講演「低炭素社会におけるホームエネルギーマネジメントシステムの役割」(東京大学) 岩船 由美子 氏

(3) 熱利用分科会 第 1 回若手セミナー

開催日：平成 24 年 11 月 30 日 (金)

会 場：名古屋国際センター 3 階第 1 研修室

企画担当者：劉 醇一 (東京工業大学), 窪田 光宏 (名古屋大学)

参加者：26 名

話題提供：

「新規化学蓄熱材の開発と実験手法」(東京工業大学) 劉 醇一 氏

「自動車とケミカル蓄熱技術」(デンソー) 布施 卓哉 氏

「吸着現象を利用した冷凍・調湿システム」(名古屋大学) 窪田 光宏 氏

ミニ話題提供と自由討論：

学生 6 名によるミニ話題提供, 8～9 名 (3 グループ) でのグループディスカッショ

ン

(4) 熱利用分科会 第 25 回研究会

「前川製作所・守谷工場見学会および講演会」(新エネルギー・エネルギーシステム分科会との共催)

開催日：平成 25 年 2 月 17 日 (木)

会 場：(株)前川製作所守谷工場 (茨城県守谷市立沢 2000)

企画担当者：汲田 幹夫 (金沢大学), 中垣 隆雄 (早稲田大学)

参加者：24 名

見学会：(株)前川製作所守谷工場（吸着冷凍機・CO₂-HP 熱源デシカント・空気冷凍システムの実機，ユニット工場，制御盤工場等）

講演会：

「前川製作所の自然冷媒ヒートポンプ技術の紹介」（前川製作所）町田 明登 氏
「機能性吸着材 AQSOA 及び AQSOA 塗布熱交換器について」（三菱樹脂）垣内 博行 氏
「AQSOA を搭載した吸着冷凍機 AdRef-Noa シリーズについて」（前川製作所）小松 富士夫 氏

2. 平成 25 年度活動計画

※ 平成 25 年度・26 年度熱利用分科会幹事

代表：汲田 幹夫（金沢大学），副代表：窪田 光宏（名古屋大学）

幹事：藤岡 恵子（ファンクショナル・フルイッド），田中 耕太郎（芝浦工業大学），
劉 醇一（東京工業大学）

(1) 第 45 回秋季大会 シンポジウム「エネルギーシンポジウム」

（炭素系資源利用分科会，熱利用分科会，新エネルギー・エネルギーシステム分科会，
微量成分分科会の共同開催）

オーガナイザー：義家 亮（名古屋大学），中川 浩行（京都大学），汲田 幹夫（金沢大学），中垣 隆雄（早稲田大学）

開催日：平成 25 年 9 月 16 日（月）～18 日（水）

概要：環境に調和した化石燃料の有効利用，未利用・自然エネルギーの利活用，省エネ技術・システムの開発など，エネルギー・環境工学に関する課題が，引き続き注視されている。本シンポジウムでは，以下に示すトピックスを中心にエネルギー・環境工学に関連する基礎研究から応用技術までの講演を広く募集し，エネルギー技術の革新に資する議論の場を提供する。1）化石燃料やバイオマス等の炭素系資源からのエネルギー発生・変換，2）各種エネルギーの回収・貯蔵・再利用，3）水素利用とエネルギーシステム，4）燃焼および環境保全

(2) 熱利用分科会研究会

熱エネルギー利用技術に関する研究開発動向の把握と新規研究テーマ開発，研究者・技術者間の情報交換と交流のために研究会を開催する（他の分科会，部会，学会との共催を検討しつつ年 2 回の開催）。

・第 26 回研究会（平成 25 年 7～9 月，開催地，内容等未定）

・第 27 回研究会（平成 25 年 11 月～2014 年 1 月，開催地，内容等未定）

(3) 熱利用分科会 第 2 回若手セミナー

次世代の熱エネルギー利用研究を担う大学院生，若手大学教員，公的研究所及び企業の若手研究者・技術者等を対象としたセミナーを開催する。なお，第 1 回セミナーでの反省点を踏まえて，開催形式や内容を検討する。

開催時期：平成 25 年 10 月～12 月

以 上

1. 燃料電池・電池分科会幹事 (敬称略)

代表:伊原 学*(東工大)

副代表:大友順一郎*(東京大)

幹事:山口猛夫*(東工大)、中川紳好*(群馬大)、古山通久*(九州大)、福長 博(信州大)、
津久井茂樹(大阪府大)、竹中 壮(九州大)、菊地隆司(東京大) *エネルギー部会幹事

2. 活動報告

2012年秋季大会シンポジウム

「次代を担う各種電池等のエネルギーデバイス ―その材料からシステムまで―」

エネルギー部会、材料・界面部会、反応工学部会の部会横断型シンポジウム

【概要】 燃料電池、太陽電池、二次電池等の次世代エネルギーデバイス技術およびその関連技術は、低炭素社会の実現に向けたキーテクノロジーです。近未来社会におけるそれら新技術の幅広い浸透のためには、個別の材料開発やプロセス技術開発だけでなく、その周辺技術の開発、およびシステム的な観点からの評価も重要です。本シンポジウムでは、燃料電池、太陽電池、二次電池等のエネルギーデバイスおよびその関連技術(電池材料・電極触媒合成、デバイスプロセス、システム評価等)に関する講演を広く募集し、材料、プロセス、システムの研究に基づく幅広い視点から化学工学ならではの討論を行います。学生発表者を対象とした表彰も計画しています。また、本シンポジウムは、エネルギー部会、材料界面部会、反応工学部会の共催による部会横断型シンポジウムです。多くの方々のご参加をお待ちしております。

オーガナイズー:

- 中川 紳好(群馬大)、富重 圭一(東北大)、田巻 孝敬(東工大)、西村 顕(三重大)、
松永健太郎(東芝)、古山 通久(九州大)

新企画として若手研究者(学生)からの積極的な発表と活発な質疑を促すことを目的に、学生賞を設けた。前年度と比して学生からの発表数が大幅に増加し、活発な討論がなされた。

International symposium on Simulations and Measurements for electrochemistry in Solid oxide fuel cells 2013 (ISSM-SOFC 2013)

2013年3月11～12日

於:東京大学本郷キャンパス福武ホール

東京大学Global COE for Mechanical Systems Innovation (GMSI)、JST-CREST(相界面)主催の国際シンポジウムを共催として参画した。

米国、ドイツ、カナダ、英国、日本からの招待講演者を迎え、固体酸化物形燃料電池の高度計測およびシミュレーションに関する世界の最先端の研究について活発な討論が行われた。

3. 活動計画

2013年秋季大会シンポジウム

「次代を担う各種電池等のエネルギーデバイスの展開 ―材料・プロセス・システム―」

エネルギー部会、材料・界面部会、反応工学部会の部会横断型シンポジウム

【概要】 燃料電池、太陽電池、二次電池等の次世代エネルギーデバイス技術およびその関連技術は、持続性のある社会の実現に向けたキーテクノロジーです。近未来社会におけるそれら新技術の幅広い浸透のためには、材料開発やプロセス技術開発とともに、その周辺技術の開発、および、システム的な観点からの評価も重要です。本シンポジウムでは、燃料電池、太陽電池、二次電池等のエネルギーデバイスおよびその関連技術(電池材料・電極触媒合成、デバイスプロセス、システム評価等)に関する講演を広く募集し、材料、プロセス、システムの研究に基づく幅広い視点から化学工学ならではの討論を行います。また、本シンポジウムは、エネルギー部会、材料界面部会、反応工学部会の共催による部会横断型シンポジウムです。本年度も学生会員による発表を対象とした表彰を行います。要旨・プレゼンテーションの明快さ、本人の主体性・貢献度の明快さと研究の理解度などを審査し、会期中に表彰を行います。学生会員で会員申請中の方は備考欄にその旨記載ください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

オーガナイズー:

- 福長 博(信州大)、西村 顕(三重大)、田巻 孝敬(東工大)、
山下 敏(東京ガス)、河瀬 元明(京都大)

資料 24-3 総 7

各分科会平成 24 年度活動報告 新エネルギー・エネルギーシステム分科会

エネルギー部会新エネルギー・エネルギーシステム分科会 2012 年度(2012 年 3 月～2013 年 2 月)活動報告書

2. シンポジウム・講演会などの行事

月日	行事名	共催・協賛団体	会場	参加者
1 月 16 日	新エネルギー・エネルギーシステム分科会平成24年度第1回研究会(熱利用分科会第25回研究会と合同)	熱利用分科会, 新エネルギー・エネルギーシステム分科会	(株)前川製作所 守谷工場	24 名

エネルギー部会〇〇分科会 2013 年度(2013 年 3 月～2014 年 2 月)事業計画書

2. シンポジウム・講演会などの行事

2014 年 1～2 月に熱利用分科会と合同開催で講演会見学会を含む研究会を実施予定。

3. 本部大会・支部行事関連行事

化学工学会第 78 年会(2013, 大阪)にて, 戦略企画センター直下の「次世代エネルギー社会検討委員会」の「次世代エネルギー社会検討委員会キックオフシンポジウム ～専門家集団によるエネルギー技術の客観的な情報基盤整理と産学公民への発信に向けて～」を共催。

各分科会平成 24 年度活動報告 バイオマス分科会

資料 24-3 総 8

各分科会平成 24 年度活動報告 微量成分分科会

資料 24-3 総 9

化学工学論文誌編集委員のエネルギー部会からの推薦

3月8日に開催された論文誌編集委員会で、エネルギー部会から出ている私は、25年度からは6期目に入ることになり、長いので交代を求められました。その際に、私が担当している分野をカバーで来る方を推薦してほしいとの要請がありました。担当分野は

エネルギー技術、環境技術、化学工学教育、MOT
です。

また、編集をグローバルに行うことができる方が今後必要であることから海外にネットワークを持っている方が望ましいと思います。

はじめの2つは他の編集委員もカバーできていますが
後の2つを担当できる方で海外に人脈を持っている方を探したところ

エネルギー部会の会員で東京農工大学化学システム工学科の
銭衛華 准教授(51)が適任と判断し、推薦いたします。

推薦理由は

銭先生は、環境にやさしいエネルギーの製造に関する研究で、
具体的に燃料油の水素化処理による硫黄フリーのグリーンエネルギーの製造や、
酸化脱硫によるガソリンや灯油や軽油の超深度脱硫プロセスの開発、
接触水蒸気改質反応を利用して、再生型エネルギー源であるバイオマス由来オイルから
燃料電池用水素の製造、固体酸触媒によるバイオマスからバイオマテリアルや
バイオ燃料の製造に関する研究を取り込んでおります。

また、農工大の MOT で日中の技術移転問題や
大学発ベンチャーに詳しく、北京、上海、南京の大学に
友人が多く、中国の学術関係と強いネットワークを持っている先生です。

私の推薦母体がエネルギー部会であることから、交代する編集委員に
エネルギー部会の承認が必要であるためご審議をお願いいたします。

平成24年度 エネルギー部会決算書

エネルギー部会

部会長 成瀬 聡

エネルギー部会 正味財産増減計算書

(平成24年3月1日から平成25年2月28日まで)



(単位:円)

科目・内訳	予算	決算	差異	備考
I. 経常増減の部				
1. 経常収益				
① 会費収入	762,000	762,000	0	
部会法人会員会費	650,000	750,000	-100,000	
個人賛助会員	12,000	12,000	0	
法人賛助会員	100,000	0	100,000	
② 事業収入	100,000	0	100,000	
講演会収入	50,000	0	50,000	
シンポジウム収入	50,000	0	50,000	
③ 分科会収入	300,000	3,693	296,307	
炭素系資源利用分科会収入	50,000	0	50,000	
燃料電池・電池分科会収入	50,000	0	50,000	
熱エネルギー利用分科会収入	50,000	1,600	48,400	
新エネルギー・エネルギーシステム分科会収入	50,000	0	50,000	
バイオマスエネルギー分科会収入	50,000	2,093	47,907	
微量成分分科会収入	50,000	0	50,000	
④ 雑収入	0	100,000	-100,000	運動能力強化工科大学センターから(電田)
⑤ 利息収入	3,000	1,038	1,962	
⑥ 他会計からの繰入金	550,000	627,000	-77,000	
本部より(共催金)	0	24,900	-24,900	第17年収益基金(化学産業フォーラム)
部会交付金(本部より)	550,000	550,000	0	
秋季大会還付金収入		52,100	-52,100	
経常収益 計	1,715,000	1,493,731	221,269	
2. 経常費用				
① 事業費支出	700,000	159,132	540,868	
講演会経費	100,000	0	100,000	
講習会経費	50,000	0	50,000	
シンポジウム経費	200,000	159,132	40,868	
セミナー経費	150,000	0	150,000	
出版費	200,000	0	200,000	
② 分科会事業費	900,000	320,066	579,934	
炭素系資源利用分科会事業費	150,000	112,035	37,965	
燃料電池・電池分科会事業費	150,000	18,948	131,052	
熱エネルギー利用分科会事業費	150,000	106,509	43,491	
新エネルギー・エネルギーシステム分科会事業費	150,000	44,274	105,726	
バイオマスエネルギー分科会事業費	150,000	35,400	114,600	
微量成分分科会事業費	150,000	2,900	147,100	
③ 管理費支出	480,000	304,148	175,852	
IT化費	120,000	131,315	-11,315	
会議費	100,000	155,000	-55,000	
旅費交通費	100,000	0	100,000	
通信運搬費	30,000	6,300	23,700	
消耗品費	10,000	7,125	2,875	
図書費	0	0	0	
雑費	20,000	4,408	15,592	
人件費(アルバイト)	100,000	0	100,000	
④ 他会計への繰出金	0	0	0	
本部への繰出(含共催)		0	0	
経常費用 計	2,080,000	783,346	1,296,654	
3. 当期経常増減額	-365,000	710,385	-1,075,385	
正味財産期首残高		5,773,329		
正味財産期末残高		6,483,714		
特定資産の増減				
1. 特定資産増加	0	0	0	
2. 特定資産減少	0	0	0	
3. 当期特定資産増減額	0	0	0	
特定資産期首残高		3,600,000		
特定資産期末残高		3,600,000		

エネルギー部会 貸借対照表
(平成25年2月28日現在)

(単位:円)

科目・内訳	当年度	前年度	増減	備考
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金	0	0	0	
預金	2,883,714	2,173,329	710,385	
普通預金 三菱東京UFJ銀行本山出張所	2,883,714	2,173,329	710,385	
			0	
未収金	0	0	0	
流動資産合計	2,883,714	2,173,329	710,385	
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
エネルギー部会事業積立資産	3,600,000	3,600,000	0	
普通預金 三菱東京UFJ銀行本山出張所	3,600,000	3,600,000	0	
特定資産計	3,600,000	3,600,000	0	
固定資産合計	3,600,000	3,600,000	0	
資産合計	6,483,714	5,773,329	710,385	
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	0	0	0	
負債合計	0	0	0	
III. 正味財産の部				
1. 指定正味財産	0	0	0	
2. 一般正味財産	6,483,714	5,773,329	710,385	
正味財産合計	6,483,714	5,773,329	710,385	
負債及び正味財産合計	6,483,714	5,773,329	710,385	

上記 正味財産増減計算書、貸借対照表を監査し、適切と認めます。

エネルギー部会監事

平成25年 5 月 5 日

小林 信介 (印)

平成25年 月 日

印

会計監査報告

公益社団法人化学工学会エネルギー部会平成 24 年度分の会計について監査を行った結果、適正に処理されているものと認める。

平成25年 〇 月 5 日

小林信介 

化学工学会 第 45 回秋季大会 エネルギー部会関係シンポジウム

シンポジウムタイトル	概要	担当部会・分科会	オーガナイザー
エネルギーシンポジウム	環境に調和した化石燃料の有効利用、未利用・自然エネルギーの利活用、省エネ技術・システムの開発など、エネルギー・環境工学に関する課題が、引き続き注視されている。本シンポジウムでは、以下に示すトピックスを中心にエネルギー・環境工学に関連する基礎研究から応用技術までの講演を広く募集し、エネルギー技術の革新に資する議論の場を提供する。1) 化石燃料やバイオマス等の炭素系資源からのエネルギー発生・変換、2) 各種エネルギーの回収・貯蔵・再利用、3) 水素利用とエネルギーシステム、4) 燃焼および環境保全	炭素系資源利用分科会、熱利用分科会、新エネルギー・エネルギーシステム分科会、微量成分分科会	汲田 幹夫(金沢大学) 中川 浩行(京都大学) 中垣 隆雄(早稲田大学) 義家 亮(名古屋大学)
再生可能エネルギーリサイクルの実現に寄与するカーボンフリーエネルギーキャリア研究の最新動向	地球温暖化への懸念から再生可能エネルギーを基盤とする産業構造への転換が求められている。その中で、近年、有機ハイドライド、水素吸蔵合金、そしてアンモニアなど種々のカーボンフリーエネルギーキャリアによるエネルギーリサイクルシステム提案されているが総合的な議論の場は少ない。そこで、本シンポジウムでは、各種エネルギーキャリアの製造・貯蔵・利用・回収技術などに関する先進的研究発表・講演を通じて、再生可能エネルギーリサイクルシステムの実現に有効なエネルギーキャリアの可能性について総合的な議論の場を提供する。	反応工学部会 反応分離分科会(上宮)、エネルギー部会(亀山)、分離プロセス部会(都留)、バイオ部会(中島田)	上宮成之(岐阜大学) 亀山秀雄(東京農工大学) 都留稔了(広島大学) 小島由継(広島大学) 中島田豊(広島大学)
バイオマス利用のための技術開発最先端	昨年に引き続き、バイオマス・バイオ技術利用によるエネルギー・マテリアル生産についての話題と議論の場を提供する。本年も、ガス化、バイオエタノール、バイオディーゼル、メタン発酵などのバイオマスエネルギー、バイオプラスチックや堆肥、飼料などのバイオマテリアル利用の技術開発を熱化学・生物化学の両面から幅広く議論したい。多くの講演申込と参加をお願いします。	エネルギー部会 バイオマス分科会(松村)、バイオ部会 環境生物分野専門分科会(堀)	松村幸彦(広島大学) 堀克敏(名古屋大学)
次代を担う各種電池等のエネルギーデバイスの展開ー材料・プロセス・システムー	燃料電池、太陽電池、二次電池等の次世代エネルギーデバイス技術およびその関連技術は、持続性のある社会の実現に向けたキーテクノロジーです。近未来社会におけるそれら新技術の幅広い浸透のためには、材料開発やプロセス技術開発とともに、その周辺技術の開発、および、システム的な観点からの評価も重要です。本シンポジウムでは、燃料電池、太陽電池、二次電池等のエネルギーデバイスおよびその関連技術(電池材料・電極触媒合成、デバイスプロセス、システム評価等)に関する講演を広く募集し、材料、プロセス、システムの研究に基づく幅広い視点から化学工学ならではの議論を行います。また、本シンポジウムは、エネルギー部会、材料界面部会、反応工学部会の共催による部会横断型シンポジウムです。本年度も学生会員による発表を対象とした表彰を行います。要旨・プレゼンテーションの明快さ、本人の主体性・貢献度の明快さと研究の理解度などを審査し、会期中に表彰を行います。学生会員で会員申請中の方は備考欄にその旨記載ください。多くの方々のご参加をお待ちしております。	エネルギー部会 燃料電池・電池分科会(福長・西村・津久井)、材料界面部会(田巻)、反応工学部会(河瀬)	福長博(信州大学) 西村 顕(三重大学) 津久井茂樹(大阪府立大学) 田巻孝敬(東京工業大学) 山下 敏(東京ガス) 河瀬 元明(京都大学)

章・節・題目	執筆者	所属
10.1 化石資源利用		
10.2 蓄熱・ヒートポンプ		
10.3 燃料電池		
10.4 水素エネルギーシステム		
10.5 バイオマス		
10.6 微量成分		
取り纏め		

エネルギー部会 2013 年度(2013 年 3 月～2014 年 2 月)事業計画書

1. 国際関連事業

共催:International symposium on Simulations and Measurements for electrochemistry in Solid oxide fuel cells
2013 (ISSM-SOFC 2013、2013 年 3 月 11 日-3 月 12 日、東京大学本郷キャンパス)燃料電池・電池分科会
IMPRES2013(International Symposium on Innovative Materials for Processes in Energy Systems 2013) (2013 年
9 月 4-6 日、九州大学)
12th Yokohama Trace Element Workshop(場所:韓国、詳細未定)

2. シンポジウム・講演会などの行事

協賛:石炭科学会議、2013 年 10 月、福岡
第 26 回熱利用分科会研究会(2013 年 7～9 月、開催地未定)
第 27 回熱利用分科会研究会(2013 年 11 月～2014 年 1 月、開催地未定)
新エネルギー・エネルギーシステム分科会 講演会見学会、2014 年 1～2 月(熱利用分科会と合同開催)

3. 本部大会・支部行事関連行事

化学工学会第 78 年会 化学産業技術フォーラム <日本における石炭ガス化複合発電技術の開発プロジェクト
>2013 年 3 月 17 日、大阪大学(エネルギー部会主催)

化学工学会第 78 年会 国際シンポジウム <アジア地域における卓越した化学工学に関する国際シンポジウム
>2013 年 3 月 18 日、大阪大学(反応工学部会、エネルギー部会、バイオマス分科会主催)

共催:化学工学会第 78 年会 戦略企画センター直下の「次世代エネルギー社会検討委員会」の「次世代エネルギー社会検討委員会キックオフシンポジウム ～専門家集団によるエネルギー技術の客観的な情報基盤整理と産学公民への発信に向けて～」、2013 年 3 月、大阪大学(新エネルギー・エネルギーシステム分科会)

化学工学会第 45 回秋季大会 エネルギー部会主催シンポジウム、2013 年 9 月 16 日～18 日、岡山大学
(各分科会共同開催)

化学工学会第 45 回秋季大会シンポジウム「次代を担う各種電池等のエネルギーデバイスの展開 ―材料・プロセス・システム―」、2013 年 9 月 16 日～18 日、岡山大学(エネルギー部会(燃料電池・電池分科会)/材料・界面部会/反応工学部会の3部会共催企画)

化学工学会第 45 回秋季大会シンポジウム「バイオマス利用のための技術開発最先端」、2013 年 9 月 16 日～18 日、岡山大学(エネルギー部会バイオマス分科会、バイオ部会環境生物分野専門分科会の共催企画)

4. 講習会などの啓発活動

協賛:見学会(炭素系資源利用分科会)、2013 年 11 月、詳細未定

熱利用分科会第 2 回若手セミナー (2013 年 10～12 月、開催地未定)

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

化工英文誌特集号(エネルギー部会)

6. 受託事業の推進

なし

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

炭素系資源利用分科会 Web ページ更新、2013 年 10 月

8. その他

炭素系資源利用分科会幹事会、2013 年 9 月 18 日、岡山大学

JCEJ 特集号の取り扱いについて

- 1 特集の内容および提案者
 - 1.1 オリジナル論文で構成された、下記のいずれかに該当する特集でなければならない。
 - 1.1.1 部会またはその分科会等の本学会内組織が企画した論文特集(提案者:部会長、部会長の委任を得た分科会長等)。
 - 1.1.2 本学会が主催・共催等の形で関わる国際会議(あるいはその一部)における発表内容をまとめた論文集(提案者:会議の主催者あるいはそれに準じる本学会員)。
 - 1.1.3 その他、上記 1.1.1 と 1.1.2 に準ずる特集
 - 1.2 必ず、**preface** および 1 件以上の **Journal Review** を含まなければならない。
 - 1.3 特集企画は編集委員会で承認を得る必要がある。
 - 1.4 1.1.2 に該当する国際会議の場合、講演者に特集募集の公示前に、編集委員会の承認を得なければならない。
- 2 特集の形式
 - 2.1 特集としてまとめることにより読者にとって有意義であることが期待されるものでなければならない。
 - 2.2 論文数は **Journal Review** を含み、20 件程度とする。ただし、これには **preface** は含まれない。
 - 2.3 特集は 1 冊を特集号とする。**supplement** としては出版しない。
- 3 特集の取り扱い
 - 3.1 審査基準、審査方法は一般論文に準じる。
 - 3.2 特集における、同一著者の論文は原則として 2 編までとする。
 - 3.3 特集申込時に決定した原稿募集期日は、守られなければならない。
 - 3.4 特集申込時に、掲載時期を編集委員長および事務局と協議し決定する。
 - 3.5 特集の **editorial board** には必ず、JCEJ のエディタが参加しなければならない。
 - 3.6 特集の **editorial board** は編集委員長の承認を得る必要がある。
 - 3.7 特集の **editorial board** は、論文の募集から掲載まで滞りなく、運営しなければならない。
- 4 特集の経費
 - 4.1 特集の著者は、掲載時に一般論文と同じ掲載料金を支払わなければならない。
 - 4.2 ただし、特集の提案者がすべての掲載料金を支払う場合は、その限りではない。
 - 4.3 特集の提案者がすべての料金を支払う場合は、JCEJ の投稿規定に記されている **member** の掲載料金を適応する。その場合も、著者は、著者が掲載料金を支払うときと同様に、著者版 **PDF** を受け取ることができる。
- 5 特集の別冊作成について
 - 5.1 特集の提案者は、特集のみをまとめて冊子にした、特集号別冊を作成することができる。別冊は特集申込時に作成の申し込みをしなくてはならない。
 - 5.2 JCEJ の通常号と同じ体裁、デザインで JCEJ の通常合本号の印刷時に作成する。
 - 5.3 価格は、¥2,000/issue とする。ただし、全体で 150 ページを超えた場合はこの限りではない。
- 6 特集の提案方法
 - 6.1 別紙の「JCEJ 特集提案用紙」を使用し申し込みをする必要がある。
 - 6.2 「JCEJ 特集提案用紙」は事務局より送付する。
- 7 報告の義務

JCEJ および論文誌では IF の向上を図ることが喫緊の課題になっている。特集号を掲載すると掲載論文数が多くなるため、相対的に IF が低下する危険性がある。このため、今後の検討のための参考資料とするため、①掲載後 1 年、および②掲載後 2 年で事務局あて、特集号掲載論文の被引用回数総数を報告していただく。

JCEJ 特集提案用紙

1. 特集名

Advanced technologies on highly efficient and ecological energy conversion and utilization
(環境調和型高効率エネルギー変換・利用技術の最先端)

2. 特集の意義

エネルギー部会は、部会制に移行後、第7期を迎える。本部会は、分科会として、炭素系資源利用分科会、熱利用分科会、バイオマス分科会、燃料電池・電池分科会、新エネルギー・エネルギーシステム分科会および微量成分分科会という6分科会体制になり、秋季大会では「エネルギーシンポジウム」を企画し、多くの発表を頂いている。これまでに本部会では、部会あるいは分科会が主催する講演に関してより詳細な情報を含む要旨を、「化学工学会エネルギー部会シンポジウム講演論文集」として継続的に発刊してきた。ついては、この活動をより発展させるものとして、広く「エネルギー部会」の研究成果を纏めた論文特集を、継続的・定期的に企画することに相成った。東日本大震災により、日本のエネルギー供給体制や利用技術に関して、多くの課題を有していることが明白になった昨今、環境に調和させながらさらに高効率化したエネルギー変換技術や利用技術の開発は必要不可欠であり、まさしく本部会が貢献すべき分野である。このような観点から、特集名を「環境調和型高効率エネルギー変換・利用技術の最先端」とし、エネルギー変換技術から利用技術に渡る最新の研究成果や技術開発に関する論文を英文誌として募集することとした。

3. 提案者

名古屋大学エコトピア科学研究所エネルギー科学研究部門 成瀬 一郎

4. 代表者氏名・所属・住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス

氏名 伊原 学

所属 東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻

住所 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

電話番号 03-5734-3337

FAX 番号 03-5734-3337

E-mail アドレス mihara@chem.titech.ac.jp

5. 予想される投稿論文数

- ・Journal Reviews 1編程度
- ・論文 20編程度

6. 原稿締切希望時期

2013 年 12 月末日 頃

7. 特集掲載希望時期

Vol. 46, No. ? 頃 (2014 年6月発刊相当)

8. 経費

下記からお選び下さい。

☐ 論文投稿者は掲載料の支払いをする。

☐ 制作費のすべてを、提案者側で支払いをする(金額は投稿規定の member の金額に準ずる)。

お願い

経費に対して、著者半額負担、残額は部会負担としたい。理由は、ある程度、投稿者へのインセンティブは必要であるからである。しかしの一方で、全額を部会で負担するには部会会計的に

圧迫する可能性があるため。基本的に学会に負担をお掛けする案ではないので、御承諾頂ければ幸甚である。

9. 別冊作成

希望する場合は、申し込み用紙をお送りいたします。

- ・特集号の別冊の作成は必要ない

10. 特集申込日

2013 年 3 月 14 日

平成25年度予算 部会 正味財産増減計算書					
(平成25年3月1日から平成26年2月28日まで)					
					エネルギー部会
					部会長 成瀬一郎 印
(単位:円)					
科目・内訳	H25年予算	H24年予算	差異	備考	
I. 経常増減の部					
1. 経常収益					
① 会費収入	758,000	762,000	-4,000		
部会個人会員会費			0		
部会法人会員会費	750,000	650,000	100,000	15社	
部会学生会員会費			0		
個人賛助会員	8,000	12,000	-4,000	4名	
法人賛助会員	0	100,000	-100,000		
② 事業収入	100,000	100,000	0		
講演会収入	50,000	50,000	0		
シンポジウム収入	50,000	50,000	0		
③ 分科会収入	300,000	300,000	0		
炭素系資源利用分科会収入	50,000	50,000	0		
燃料電池・電池分科会収入	50,000	50,000	0		
熱エネルギー利用分科会収入	50,000	50,000	0		
新エネルギー・エネルギーシステム分科会収入	50,000	50,000	0		
ハイオマスエネルギー分科会収入	50,000	50,000	0		
微量成分分科会収入	50,000	50,000	0		
④ 雑収入	0	0	0		
⑤ 利息収入	800	3,000	-2,200	H23決算:739円	
⑥ 他会計からの繰入金	550,000	550,000	0		
本部より(共催金)	0	0	0		
部会交付金(本部より)	550,000	550,000	0		
秋季大会還付金収入			0		
経常収益 計	1,708,800	1,715,000	-6,200		
2. 経常費用					
① 事業費支出	1,300,000	700,000	600,000		
講演会経費	100,000	100,000	0		
講習会経費	50,000	50,000	0		
シンポジウム経費	500,000	200,000	300,000	年会英語セッション対応	
セミナー経費	150,000	150,000	0		
出版費	500,000	200,000	300,000	化学工学会論文集特集号別刷代	
② 分科会事業費	1,050,000	900,000	150,000		
炭素系資源利用分科会事業費	150,000	150,000	0		
燃料電池・電池分科会事業費	150,000	150,000	0		
熱エネルギー利用分科会事業費	150,000	150,000	0		
新エネルギー・エネルギーシステム分科会事業費	150,000	150,000	0		
ハイオマスエネルギー分科会事業費	300,000	150,000	150,000	年会英語セッション対応	
微量成分分科会事業費	150,000	150,000	0		

③ 管理費支出	1,391,315	480,000	911,315	
IT化費	131,315	120,000	11,315	H23決算:131315円
会議費	100,000	100,000	0	
旅費交通費	100,000	100,000	0	
通信運搬費	30,000	30,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	
図書費	0	0	0	
雑費	20,000	20,000	0	
人件費(アルバイト)	1,000,000	100,000	900,000	庶務補佐員
④ 他会計への繰出金	0	0	0	
化学工学会本部への繰出(含共催)			0	
経常費用 計	3,741,315	2,080,000	1,661,315	
3. 当期経常増減額	-2,032,515	-365,000	-1,667,515	
正味財産期首残高				
正味財産期末残高				
特定資産の増減				
1. 特定資産増加	0	0	0	
2. 特定資産減少	0	0	0	
3. 当期特定資産増減額	0	0	0	
特定資産期首残高				
特定資産期末残高				

	エネルギー部会		
平成 2 5 年度予算 事業明細			
			(単位：円)
	部会	分科会	合計
	事業収入・ 事業費支出	分科会収入・ 分科会事業費	
収入計	100,000	300,000	400,000
支出			
運営費	100,000	1,050,000	1,150,000
旅費交通費（職員）	0		0
施設利用料	100,000		100,000
通信費	25,000		25,000
諸謝金	500,000		500,000
雑費	25,000		25,000
出版費	500,000		500,000
臨時雇賃金（アルバイト）	50,000		50,000
支出計	1,300,000	1,050,000	2,350,000
収支差	-1,200,000	-750,000	-1,950,000

平成 24 年 3 月 16 日

化学工学会エネルギー部会 平成 23 年度第 2 回総会議事録(案)

日 時: 平成 23 年 3 月 16 日(金)12:00-13:00

場 所: 工学院大学新宿キャンパス I 会場(7 階 A-0715)

出席予(敬称略): 倉本浩司、野田玲治、小林信介、大友順一郎、菊地隆司、長谷川功、清水忠明、
汲田幹夫、二宮善彦、菅原勝康、諸岡成治、西村顕、隈部和弘、四十物清、桜井誠、成瀬一郎、
植木保昭

1. 報告事項

- (11)平成 23 年度理事会報告 : 回覧
- (12)平成 23 年度秋季大会エネルギー部会企画シンポジウムについて : 資料 24-3 総 1
成瀬部会長より報告があった。
- (13)化学工学会年鑑 2011 : 資料 24-3 総 2
成瀬部会長より報告があった。
- (14)主催・共催・協賛等について : 資料 24-3 総 3
成瀬部会長より報告があった。追記等については修正済み(赤字)。その他、追記および修正
等ある場合は事務局まで。
- (15)各分科会平成 23 年度活動報告(部会 Web への掲載情報)
平成 23 年度分の各分科会主催のシンポジウムおよび研究会等の成果報告書を作成し、至急、
事務局まで電子媒体として送付頂く。それらは部会 HP にアップロード。
各分科会より説明があった。
- i) 炭素系資源利用分科会 : 資料 24-3 総 4
- ii) 熱利用分科会 : 資料 24-3 総 5
- iii) バイオマス分科会 : 資料 24-3 総 6
- iv) 燃料電池・電池分科会 : 資料 24-3 総 7
- v) 新エネルギー・エネルギーシステム分科会 : 資料 24-3 総 8
- vi) 微量成分分科会 : 資料 24-3 総 9
- (16)その他
なし

2. 審議事項

- (4) 平成 23 年度第 1 回総会議事録(案) : 資料 24-3 総 10
審議の結果承認された。修正等ある場合は事務局まで。
- (5) 平成 23 年度決算について : 資料 24-3 総 11
植木より説明があり、審議の結果承認された。
- (6) 平成 24 年度事業計画 : 資料 24-3 総 12

成瀬部会長およびシンポジウムの各オーガナイザー、各分科会より説明があり、審議の結果承認された。

熱利用分科会より、若手研究者および学生を対象とした勉強会開催を検討中であり、部会にご協力願いたいとのこと。

燃料電池・電池分科会より、秋季大会シンポジウムにて若手研究賞(仮称)を設ける予定とのこと。

- (7) 平成 24 年度予算について **: 資料 24-3 総 13**
植木より説明があり、審議の結果承認された。

- (8) 部会規約の修正について **: 資料 24-3 総 14**
成瀬部会長より説明があり、審議の結果承認された。

- (9) その他
・部会 CT 会議にて、部会で教科書・専門書(シリーズもの)の出版を検討してほしいとのこと。審議の結果、情報を収集し、再度検討することとした。
・部会シンポジウム要旨集の発刊について、化工英文誌もしくは和文誌で特集号を組んではどうか、掲載料の半額を部会で支払ってはどうか、講演を評価して推薦してはどうか、部会横断型のシンポジウムはどうするのか、などの意見が挙がった。審議の結果、掲載料等の情報を収集し、再度検討することとした。

3. 連絡事項

- (3) 次回幹事会・総会について
i) 平成 24 年度第 1 回幹事会
平成 24 年 9 月 19 日(水):秋季大会(東北大学)第 1 日の夕刻を予定
ii) 平成 24 年度総会
平成 25 年 3 月 18 日(月):年会(大阪大学)第 2 日の昼を予定
- (4) その他
なし

化学工学会「エネルギー部会」規約

2001.4.2 制定, 2002.3.27, 2002.12.20, 2004.4.3, 2011.9.15 改訂

(総則)

第1条 本会は(公社)化学工学会の部会規定により設置され,「エネルギー部会」と称する(英文名; Division of Energy Engineering). 事務局は当部会の代表者の所属する機関とする.

(目的)

第2条 本会は化学工学会のエネルギーに係る専門分野の代表機関として, エネルギーの開発から蓄熱, 熱輸送, エネルギー利用まで, エネルギーに関連する諸課題について, 横断的に学術および技術の向上, 交流を促進し, 産官学間の基礎研究, 基盤研究, 応用研究開発の有機的な連携をはかることを目的とする.

(事業)

第3条 本会の目的を達成するため, 次の事業を行う.

- 1) エネルギー開発, 転換, 蓄熱, 熱輸送, 効率的エネルギー利用等, エネルギーに関連する研究
- 2) 講演会, 講習会, 見学会の開催
- 3) 調査および資料, 情報の収集・整備と交換
- 4) 国際会議, 化学工学会シンポジウムの開催と支援
- 5) その他, 本会の目的の達成に必要な事業

(構成)

第4条 本会は個人会員, 賛助会員, 学生会員, 特別会員, 名誉会員で構成される.
個人会員は化学工学会正会員のうち, 部会に参加を希望した全員である.
賛助会員は, 部会活動に参加を希望した全員であり, 事業所・研究所別に賛助会員の登録ができる.
学生会員は化学工学会学生会員のうち, 部会に参加を希望した全員である.
特別会員は, 化学工学会の会員でない正会員あるいは学生会員である.
名誉会員は, 本会の特に功労のあった会員で, 幹事会での推薦, 承認をもって決定される.

(入会および退会)

第5条 入会および退会は書面により提出し, 幹事会で承認を得るものとする. 会費の滞納が 1 年以上におよぶ会員は会員の資格を放棄したものとみなす.

(役割およびその任期)

第6条 本会に次の役員をおくことができる.

部会長 1 名. 副部会長若干名, 部会幹事若干名, 庶務幹事1名, 会計監事1名. また, 分科会をおく場合は, 分科会正代表1名, 副代表者 1 名ないし2名, 分科会幹事若干名をおくことができる. 役員の任期は, 原則として 2 年間とし, 部会長を除き再任を妨げない. 任期半ばで交代した場合の任期は前任者の後任期間とする.

部会長は退任後, 幹事会の承認を得て顧問幹事となることができる. 顧問幹事には任期は定めない.

(役員の職務)

- 第7条 部会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 副部会長は、部会長を補佐し、円滑な会務の遂行を行う。
- 幹事は、本会の運営および諸行事の企画立案およびその業務を執行し、職務、会計、企画を分担する。分科会正副代表者および分科会幹事は幹事も兼任する。
- 会計監事は部会の財政および業務を監査する。
- 分科会正副代表者は、各分科会を代表し分科会の会務を総括する。
- 分科会幹事は、分科会の運営および諸行事の企画立案およびその業務を執行する。

(役員の選出)

- 第8条 部会長の選出は部会会員の推薦をもとに幹事会で候補者を協議した上、総会にて選出する。
- 総会にて部会長選出後、部会担当理事を通じて化学工学会理事会が承認する。
- 副部会長、庶務幹事、会計監事、幹事、分科会正副代表者は部会長が任命し、幹事会にて承認する。
- なお、部会長は幹事会の議を経て随時幹事を任命できる。新たに任命された幹事の承認は次の幹事会にて行う。

(役員の罷免)

- 第9条 本会にとって著しく不利益が生じるもしくは本会にふさわしくないと判断された場合は、会員からの申し出により、当該役員の処遇について幹事会で協議したのち、正当な根拠とともに総会に審議を諮る。

(分科会の設置)

- 第10条 本会の目的を達成するための分科会を設置することができる。
- 分科会の設置、期間延長および改廃と正副代表者は幹事会で協議の上、総会の承認により決定する。
- 分科会の設置期間は2年とするが、必要に応じて期間を延長することができる。
- 分科会幹事は分科会代表者が任命し、幹事会にて承認する。

(部会幹事会)

- 第11条 幹事会は、部会長、副部会長、庶務幹事、会計監事、幹事により構成し、必要に応じて部会長が召集する。
- 幹事会は次の事項を行う。
- 1) 会の設置および継続に関する事務
 - 2) 会員の入退会
 - 3) 化学工学会との連絡
 - 4) 事業計画、予算および決算案の立案
 - 5) 分科会正副代表者の選出および分科会幹事の承認
 - 6) 次期部会長候補の選出
 - 7) その他、本会の運営と事業の執行に必要な事項

(総会)

第12条 総会は年 1 回行い, 部会長がこれを召集する. ただし, 部会長は必要に応じて臨時総会を召集できるものとする.

総会では次の事項を行う. 議決は出席者の過半数の賛成による.

- 1) 事業, 会務報告とその承認
- 2) 事業計画, 予算の承認
- 3) 役員の改選
- 4) 規約の改正および細則の制定と改正
- 5) その他, 本会に必要な事項の決定

(部会事務局)

第13条 部会事務局は部会長の下で, 部会の事務一般を掌握する. 部会事務局員の任命は, 幹事会の議を経て部会長が行う.

(会計)

第14条 経理は化学工学会との連結決算となる. 本会の運営に必要な経費は, 会費, 寄付金, 委託研究費および事業収入を以てこれにあてる. 部会運営経費の 10%を部会関連事業経費・管理費として化学工学会本部へ納める. 受託研究の受け入れに伴う経費の扱いについては, 事実が発生した時点で, 幹事会にて協議, 規定する. 余剰金は, 次年度へ繰り越しできる.

(会費)

第15条 個人会員の会費は化学工学会の定める規程に従う. 賛助会員, 特別会員は幹事会にて別途定める額の年会費を納める. 名誉会員, 学生会員は会費を納めなくても良い.

(細則)

第16条 本規約の実施に関して必要が生じた場合には細則を定めることができる. 細則の制定と改正は総会の承認をもって成立する.

(規約の改正)

第17条 本規約は, 総会の承認をもって改正することができる.

(付則)

第18条 本規約は 2001 年 4 月 2 日より施行する.